



サンビोटニック農業で美しい花園！



きく（菊） 栽培基準

本圃（土耕）

時期	ステージ	商品名	10a施用量・倍率	施用方法	備考
	挿し芽育苗	菌力アップ	200倍希釈	灌水5日おき	挿し芽の場合は、無菌培土に挿し、発根・活着を確認したのちに、菌力アップ200倍希釈を定期的に灌水する。鉢上げ後も、同様に菌力アップ200倍液を灌水する。
	土づくり	バーク堆肥 菌力アップ	2～3トン 5リットル	土壌混和 灌水	土づくりには、必ず良質な堆肥を使用します。植物質の多い、バーク堆肥やもみ殻堆肥などが良いですが、身近にない場合は、五穀堆肥50袋／10aを使用します。畜産堆肥であれば、牛糞堆肥や馬糞堆肥なら1～2トン、鶏糞堆肥や豚糞堆肥なら500kg程度。堆肥の上に菌力アップ5Lを適宜希釈して散布し、全体に混和します。混和後、1か月ほど寝かせ、その後、スラグ肥料等でpHを矯正します。最適pH 6.0～6.5に合わせます。スラグ肥料にはミネラルが多く含まれているのでお勧めしますが、手に入らない場合は、有機石灰で構いません。
		スラグ肥料、または有機石灰	100～200kg	土壌混和	
	元肥	有機百倍、又は マッスルモンスター 鈴成 水酸化マグネシウム	8～10袋 8～10袋 10～20kg	土壌混和	定植2週間前までに土壌混和する。マグネシウムは土壌分析し、必要に応じて施用します。pH7.0以上の土壌では、硫酸マグネシウムを20～40kg施用します。
	定植後	菌力アップ 糖力アップ	5リットル 5kg	約1トンの水に希釈して灌水 7日おき4回	初期の発根量が、収穫量に影響します。十分な根張りをさせるため、菌力アップと糖力アップを1週間に1回灌水します。同時に土壌微生物相を整え、立枯病やネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウなどの土壌病害虫のリスクを軽減します。
	追肥	有機百倍 硫酸カリ	3袋 10kg	表層施肥 (灌水の範囲)	追肥は、生育を見ながら適宜、左の施肥量を1～2回程度施用する。(作型によっては3回追肥)
	追肥	菌力アップ 糖力アップ コーソゴールド	5リットル 5kg 3kg	約1トンの水に希釈して灌水 7日おき数回	十分な灌水をできることが、品質向上と収量向上に不可欠です。生育後半は、土壌団粒化が壊れ、気相率が減少して来ますので、追肥後に菌力アップ、糖力アップを数回灌水し、土壌団粒化を促進します。草勢が強い場合は、糖力アップを2～3kg程度に減らして施用します。
	開花促進	コーソゴールド 海王	500倍希釈 5000倍希釈 (水量150リットル)	3～4日おきに 葉面散布(5回)	花芽形成促進、花芽充実に、農薬散布時に混ぜて散布すると効率的です。そのほか、日照不足、低温、その他の要因で開花が遅い、花芽が充実しないときは、実施します。光合成産物が増え、開花を促進します。
病害時 (随時)	葉面病害発生時の対応	純正木酢液 本格にがり	500倍希釈 500倍希釈	3～4日おきに 葉面散布(5回)	灰色カビ、うどんこ病、白さび病、斑点病などの、葉の病害の時は、殺菌剤等と併用して、純正木酢液、本格にがりを散布する。
病害時 (随時)	土壌病害およびネコブセンチュウなど発生時	菌力アップ 純正木酢液 (センチュウの場合) 糖力アップ	10リットル 500～1000倍希釈 5kg	灌水(水1トン) 3日おき4回以上	青枯病、萎凋病、立枯病、白絹病などの土壌病害は、必ず初期症状で発見し対応する。適用薬剤があれば、殺菌剤等を使用したのち(数日後)、菌力アップ・純正木酢液で病害の蔓延・拡大のリスクに対応する。ネコブセンチュウの場合は、菌力アップ10Lと糖力アップ5リットルを混用する。3日おき4回灌水が終了したら、使用量を半分に、7日おきに灌水を継続する。

※糖力アップは、点滴灌水、ドリップ灌水では詰まりますので使用をお控えください。

※地域、作型によって、時期が異なると思いますので、生育ステージで判断してください。

※品種や土壌条件等によって、施肥量は加減してください。(上記は土耕栽培を前提としています。)

(土づくりのポイント)

◎作付け前には必ず、土壌分析し、最低でもpH、ECは、適正値になるよう注意してください。

◎土壌分析に基づき、不足ミネラルを必ず補充していくことが重要。ECを上げにくい資材を選択する。また、リン酸過剰の圃場が多いが、その場合は、1年間鈴成の施用を控え(または半分に)、苦土(マグネシウム)、二価鉄などのミネラルをしっかり施用していく。

◎継続的に菌力アップを灌水することで、土壌団粒化が促進され、乾燥し疲弊した根に、活力を取り戻すことができる。

◎病害や害虫多発の圃場では、チッソの効きすぎが問題となっていることが多い。そのような場合は、固形肥料を減らし、アミノ酸系の液体肥料での管理を行う。また、過剰チッソを吸収するため、土壌のCECを上げることが重要で、C/Nの高い堆肥(25～40)を施用する。

◎栽培初年度には、暗渠排水などの排水の整備は必ず行うこと。上記の通り、下層部までの十分な水分と通気性が最重要ポイントである。初年度には、チッソ過剰の害を軽減するため、CECは20meq以上を目標とし、良質な完熟堆肥(C/N25以上)を3～5トン、およびゼオライトやベントナイト、パーミキュライトなどの良質なCEC改善資材を施用する。ゼオライトは、年に1回継続的に施用するとおおよい。

◎多灌水圃場では、pHが下がりがりやすいため、かき殻石灰(できれば苦土入り)を必要に応じて施用する。